不定期連載第24回

普及の種蒔き 強化の水やり

中学男子カテゴリーにまた新しいクラブチームが誕生した。日本リーグ・大阪グローバルの名称を冠したジュニアチーム。指揮官には、興國高校を率いてインターハイ準優勝などの実績を残してきた猪上祐示監督が就いた。秋に初の体験入部会を開催し、本格始動している。

文／大久保亘　撮影／福地和男

日本リーグのジュニアチーム 中学ソフトボール界に新たな風

大阪グローバルの数年来の懸案

各地で男子中学チームの活動が活発になる中で、また一つクラブチームが誕生した。日本リーグ・大阪グローバルのバックアップを受け、名称も「大阪グローバルジュニア」。指揮官には、猪上祐示監督が就任した。猪上監督は、興國高校を率いてインターハイ準優勝。大阪府代表監督としても、国体準優勝など輝かしい成績を残している。部活動から離れ、新しい世界での挑戦となる。

10月末に体験入部会、そして11月からはすでに土・日を中心に練習を始めていて、練習試合の予定を組むなど本格的に活動している。

大阪グローバルにとって、地元で中学カテゴリーを活性化させることは、数年来の懸案だった。羽田政登顧問は次のように話す。

「大阪でソフトをしている小学生は、中学に行ったら野球をやるという流れがある。男子ソフトはまだまだメジャーじゃないけれど、だからこそ中学からやらないといけないのではないか、という話は2年くらい前からしていた。そんなときに猪上さんが学校を辞められたという話を聞いて、監督を任せるなら彼くらい実績のある人にお願いしたいと相談したところ、一気に話が進んだ」と話す。

当時のことを、猪上監督は次のように振り返る。「羽田さんや長（秀一）さんから『情熱は冷めてないはずだ。それならここでソフトから離れるような、もったいないことはするな』と言われて決心した。羽田さんからは『結果しか見ないから、好きなようにやっていい』と言われている。優しくもプレッシャーのある言葉で、気持ちも引き締まる」

一般的に新チームを立ち上げるなら3月や4月が多い。学年の変わり目であり、新年度の始まり。新しいことに挑戦したくなる時期である。ところが、11月という時期にスタートしたのには、狙いがある。猪上監督は次のように話す。

「中学の野球のスカウトが始まるのが11月や12月ごろなので、それよりも前に動き出して、少しでもアピールしたかった。それと来年4月から始めようという子たちにとっては『これからスタートしますよ』というチームよりも、『すでに練習も始まっていて、練習試合もしていますよ』というチームのほうが安心して入ってこられると考えた」

周到な準備と部員集めのための戦略があってこその、10月スタートとなったのだ。

体験入部会には50名の参加者

「目線の高さにしっかり投げよう。思い切って！」

日没がすっかり早くなってきたことを実感する10月末、前述の体験入部会が開催された。猪上監督は、小学生にも分かるシンプルながら、的確なアドバイスを送っていた。体操、キャッチボールから始まり、守備、バッティング、ピッチングまで。一通りのメニューを、グループに分かれて行った。大阪グローバルの選手たちのサポートもあって、すべてがスムーズに行われた。約2時間の体験会の後、長代表があいさつで「楽しかった人？」と聞くと、ほぼ全員が手を挙げていた。

体験会にはゲストも多数駆け付けた。子どもたちに試打用のディマリニバットを提供したアメアスポーツジャパン㈱。そして4月からユーチューブチャンネルを開設したこーいちろーさん。高校、大学でソフトに打ち込み、卒業後はオーストラリアでもプレーした。その経験を生かして男子ソフトの魅力を発信している。グローバルジュニア発足へ向けた動きとリンクするように活動を始めたこーいちろーさんだが「まったくの偶然」（笑）と驚きつつ「いまヒラキンさんもユーチューブで積極的に発信するなど、男子ソフトが面白い。僕は陰からこっそり応援していきたい」と話す。

各地で体験会は開かれているが、参加者の動員に苦労するという話も聞く。それが今回は内容といい、規模といい、大成功といえる。長代表は「愛媛や愛知でも同じような体験会を開くけど、なかなか参加者が集まらないという話を聞くけど、今回は50名近い子が集まってくれた。すべて猪上さんの地道な活動のおかげ」と話す。

猪上監督は、新しく始めた事業の傍らで、自らチームのホームページを作成。そこで体験会を大々的に告知してきた。そして土・日には、小学校で練習しているソフトボールチームへ直接出向き、監督や選手にチラシを配り、告知をして回った。

「あいさつしてもほとんど聞いてくれないような監督もいて、嫌な思いをすることもあるけど、僕らはそういう苦労をしてもいい。何とか子どもたちのチームをつくろうという思いだけがある」と猪上監督。

来年からは、当然各種大会へ出場も視野に入れている。まずは毎年地元の大阪・舞洲で開催されている全日本中学への出場。そしてうまく調整ができれば、それより前、3月の都道府県対抗へ出場の可能性もある。そのためのチームスタッフが充実しているのが強み。猪上監督をサポートするのが、清風南海中学で監督を務めていた吉門佳則コーチ。大阪学芸中等教育学校では、イチから部を立ち上げた実績もある。その他、大阪グローバルから、羽田顧問、長代表。大阪グローバルとは、合同練習の予定もある。体験会で、子どもたちのピッチングを見てアドバイスをしていた北添政樹は「この体験会だけで急にうまくなるとは考えていない。継続して見てあげたなら、ソフトの奥深さまで伝えることができるかもしれない」と話す。

大阪グローバル・山下貴史監督は、体験会の様子を見ながら、「今回参加した子たちは完成されたピッチャーもたくさんいてびっくりした。これまで小学生や中学生の選手たちを見ることはほとんどなかったので、すごいなというのが率直な感想」と話していた。

今後のグローバルジュニアの展望について羽田顧問は「まずここから高校、大学まで続けてくれるような選手を出していくこと。そしてゆくゆくは日本リーガーや日本代表が出てくるようなチームを目指す」と話す。

野球文化が根強い大阪とはいえ、すでに中学でソフトボールをやると決めているという子もいた。これまではチームがないから、という理由で諦めなければならなかったところに、受け皿ができた。今後、先行する熊本や長崎、福井などに追いつくようなチームになりそうな勢いがある。「うまいか下手か、じゃない！　ソフトボールが好きかどうかだ！」を合言葉に、全国を驚かす準備が着々と進む。

▲現役の日本リーガーから直接アドバイスを受けられる。グローバルジュニアだからこそできること

▲体験入部会に参加した投手のレベルは高く、指導陣から驚きの声があがるほどだった

▲グローバルとジュニアががっちり手を組んで運営。右から羽田顧問、猪上監督、長代表